

学生が競う全日本大会へ

変わる全日本オリエンテーリング大会

全日本オリエンテーリング大会の継続開催を目指してその方法を検討している。

全日本大会は JOA 主管に

全日本オリエンテーリング大会の開催が開催都道府県持ち回りでは継続できなくなっている。理由はおおきく三つ。

- (1) 大会に求められるトレインの広さを得ることが大都市近郊では難しくなっている。
- (2) 運営を主管していた地方協会では競技に求められる技術レベルに対応できない。
- (3) 主管都道府県協会の財政負担が大きい。小さな県協会組織では負担し切れない。

これに対応して、全日本大会は JOA 直轄主管にすることになり、地方協会への丸投げは当面なくなる。

イベントの価値を上げる動き

JOA 直轄主管になるといっても、今までのやりかたではうまく行かない。特に財政面が改善しない限り、事業が継続できない。突然パトロンが現れる夢物語を描いてもしかたない。独立採算で事業を継続するためには事業収入を増やすか、経費を節減するしかないのだ。縮小均衡か、事業収入拡大（復活）か。当面は拡大を模索することにした。

事業収入拡大（復活）のためには、まずはイベントとしての価値を高めることが必要だ。いま全日本大会としての価値で大きく欠けているのは何か。それは学生の参加者が少ないことである。

日本のオリエンテーリング競技人口の概ね半分が大学生。もともと競技人口の少ないオリエンテーリング競技において、大学生の存在は大きい。その大学生を含め、日本全国のオリエンテーリング愛好家が目指す競技会を作りあげることができれば、イベントとしての価値は上がるはずだ。

多くの人にとってイベントの価値があがれば、事業収入を増やす道も開けてくるだろう。

インカレ選考会を誘致

今の大学生オリエンティアの多くはインカレ（学生選手権）という明確な目標があり、それを目指す姿勢がここまで大学クラブを発展させてきている。

このインカレシステムと全日本大会をうまく繋げることで、全日本大会というイベントの価値を上げることができないかという試みが検討されている。

具体的には、インカレのロング・ディスタンス競技の選考会を全日本大会の一部で行なおうとしている。これによって多くの学生を全日本大会に参加していただきたいと考えている。

価値基準の違うイベント

だが、インカレと全日本大会では基本とする価値基準が違う。インカレは28歳以下で大学籍さえあれば、年齢に関係なく同じクラスで競い合う。だが全日本大会をはじめとする JOA 公認大会では年齢別クラスを基本とし、学籍は関係ない。

この部分で何らかの妥協が無ければ、この価値基準の違うイベントを繋ぐことはできない。

全日本大会を変えよう

開催危機に陥っているのはインカレではない。全日本大会である。変わるのは全日本大会なのだ。もし全日本大会が変われなければ、今までの延長として規模縮小してゆくことになるだろう。

学連に協力要請

これらの課題を解決するために、JOA では常設全日本大会実行委員会を設立した。常設実行委員会ではまず日本学生連盟に対して、これらの案に協力いただくようお願いし、日本学連幹事会にも出席して説明した。

その結果、日本学連幹事会からは前向きな返事をいただいた。

- ・全日本大会にインカレロング選考レース併設することに対して日本学連は協力する。
- ・選考用レースをどのようにインカレロング選考に反映させるかは、毎回各地区学連が決定する。

また、全日本大会の M/W21E クラスに出場する学生選手は、地区学連の選考レースに出る機会が失われることになることから以下のような措置をとるこ

とが検討されている。

全日本大会(6月開催)の M/W21E 出場権を持つ者は、インカレロング選手権への出場権を得る。

この者は、地区学連によるインカレロング選手権出場枠(男子60名、女子30名)とは別枠とする。

適用は2018年インカレロングを目指す。

学連議論の焦点はジュニアに

全日本大会で上記のような制度が動き出した場合、全日本ジュニア選手権クラスとも言える M/W20E クラスには、大学生がほとんど参加しなくなる。

M/W20E クラスは20歳以下が参加することが可能であり、大学2年生以下なら出場することが可能だが、多くはインカレロングの選考レースに参加するだろう。

今の M/W20E クラスは大学下級生と高校生がガチンコで競い合う貴重な場であるが、この機会は失われることになる。

6-3-3-4 システムに合わせる

現在の日本のクラス分けは国際大会に準じたものである。ただ日本の学制(小学校6年-中学校3年-高校3-大学4年システム)とは一致していない。これが良いのか、それとも変更したほうが良いのか。全日本大会とインカレシステムとの融合を図る上で、ここは揃えたほうがよいだろう。

ここが整備されれば、オリエンテーリング競技者登録の半数以上を占める大学生オリエンティアが、全日本大会を含めた公認大会システムを受け入れることが容易となる。

日本の大学の特殊性

オリエンテーリングの国際基準を作っている国々では徴兵制が敷かれ、18歳以上の男子は兵役義務がある。その結果世界各国の大学生の年齢はさまざまとなり、日本のような「同一学年は同級生」という感覚は持ちにくい。

それに比べると日本の大学生の年齢は世界的に見ても均質だろう。

これらを踏まえて今後も議論を重ねてゆきたい。

(木村佳司)